

《教養科目》

科目名	実用英語				
担当者氏名	大野 満奈				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

海外で積極的にコミュニケーションを図るためには、事前に語学力向上の機会を多く持つことが必要である。そのため、ここでは英語圏内のホームステイに必要な、日常生活の身近な話題に関する英語学習を通して、異なる海外の文化、習慣や考え方に対する理解を深め、自分の意思を英語で伝える基礎的な能力を培う。

《授業の到達目標》

本講義では、入国審査、自己紹介、ホストファミリーとの対面、日本文化の説明や食事等の様々な場面に対応する実践的会話を英語で行うことができる。

《成績評価の方法》

プレゼンテーション20%，レポート80%を総合して期末に評価する。総合評価60点以上を合格点とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction&Greetings	自分の家族、学校、趣味等の自己紹介 【時間外学習】自己紹介を英語でできるように演習しておくこと
2	Immigration & Customs	入国審査、税関でのやり取り 【時間外学習】テキストP.8を-11を読んでおくこと
3	At the airport Self-Introduction	空港やホスト先で家族に会った時の会話 【時間外学習】テキストP.14を-17を読んでおくこと
4	Family Rules,Cleaning, Shower& Your room	家の中を案内してもらう時、部屋の使い方の説明を受ける時 【時間外学習】テキストP.18を-23を読んでおくこと
5	Greeting Telephone	いろいろな場面での挨拶、電話のかけ方 【時間外学習】テキストP.34を-39を読んでおくこと
6	Japanese Life Where is Japan?	日本はどのような国かを紹介する場面 【時間外学習】テキストP.48を-51を読んでおくこと
7	Japanese Culture Japanese Food	日本の文化や食べ物について語り合う 【時間外学習】テキストP.52を-55を読んでおくこと
8	Japanese Education Sightseeing in Japan	日本の教育制度や観光地を紹介する 【時間外学習】テキストP.56を-59を読んでおくこと
9	Japanese Martial Arts Japanese History	日本の武道と歴史を語る 【時間外学習】テキストP.60を-65を読んでおくこと
10	Table Manners Mealtime	西洋での食事のマナーと習慣 【時間外学習】テキストP.66を-69を読んでおくこと
11	Conversation at the table	食卓での会話 【時間外学習】テキストP.70を-73を読んでおくこと
12	Helping with Meals Cleaning the table	食事の支度と後片付けを手伝う場面 【時間外学習】テキストP.84を-87を読んでおくこと
13	Listening Yes & No	相手の優ことが聞き取れない時・イエスとノーをはっきりさせる 【時間外学習】テキストP.92を-95を読んでおくこと
14	Asking Housework	何かを頼む時・家事を手伝う時 【時間外学習】テキストP.98を-101を読んでおくこと
15	Playing with Children Watching TV	家族と遊ぶ 【時間外学習】テキストP.102を-105を読んでおくこと

《テキスト》

桑原功次「はじめてでも困らないホームステイの英会話」ナツメ社2015（第1回目の授業中インターネットで購入する）

《参考図書》

中崎温子・井上裕子著「ホームステイの英語&情報ガイド」三修社  
岩間直文著「英会話練習帖」洋泉社

《授業時間外学習》

教科書の予習と復習、そして英語に触れる機会を多く持つことが大切である。次回の授業範囲を予習し、単語や熟語の意味等を調べ理解しておくこと。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の提出課題にコメントしフィードバックする。

《教養科目》

科目名	海外研修				
担当者氏名	大野 博之、馬場 和久、専任教員				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

計画した日程に従って現地での実習を中心に学修していく。1年次に履修した「日本文化と国際理解」で学び、身につけたことを実践の場で確かなものとする。また、国際社会の中で信頼される「人」となるために、我が国の伝統や歴史、文化等を学び異文化を理解しながら、専門職者としての自己を確立していく。授業は主体的で対話的な学習スタイルを重視する。

《授業の到達目標》

集団行動のルールとマナーを理解し実践する。集団行動を通して、「One for all, all for one」の精神を身につける。ホームステイにおいて英語でコミュニケーションがとれる。シドニー大学、マッコーリー大学、バンクーバーアイランド大学、台北城市科技大学等での研修に参加しその内容を説明できる。訪問先施設での専門職の実際について説明できる。

《成績評価の方法》

研修に対する意欲・態度・行動の状況70%、ノート30%により評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	海外研修の目的や意義：学長	海外研修の目的や意義について理解を深める。 時間外学修 授業で学修した内容をノートに整理しまとめておく。
2	研修中の行動ルールやマナー(1)：引率者等	研修中の行動やマナーについて、自ら考え理解し身につける(1) 時間外学修 授業で学修した内容をノートに整理しまとめておく。
3	研修中の行動ルールやマナー(2)：引率者等	研修中の行動やマナーについて、自ら考え理解し身につける(2) 時間外学修 授業で学修した内容をノートに整理しまとめておく。
4	研修中の行動ルールやマナー(3)：引率者等	研修中の行動やマナーについて、自ら考え理解し身につける(3) 時間外学修 授業で学修した内容をノートに整理しまとめておく。
5	現地での言葉や用語：引率者等	研修先での言葉や用語等について学修し、理解を深める。 時間外学修 現地での言葉について学修しておく。
6	現地研修に係る諸課題：引率者等	現地できりうる様々な事態を想定し、話し合いながらまとめ、発表する。 時間外学修 現地で想定されるケースについてまとめておく。
7	現地研修に対する心構え：学長	目標をふまえた行動計や言葉によるコミュニケーション、本学の教育方針等 時間外学修 授業で学修した内容をノートに整理しまとめておく。
8	異文化の理解(1)	研修先の幼児教育や食文化、歴史、伝統、環境等について理解を深める。(1) 時間外学修 授業で学修した内容をノートに整理しまとめておく。
9	異文化の理解(2)	研修先の幼児教育や食文化、歴史、伝統、環境等について理解を深める。(2) 時間外学修 授業で学修した内容をノートに整理しまとめておく。
10	研修先での施設等の見学：引率者等	研修先での専門職業の実際について理解を深める。 時間外学修 研修内容を内容をノートに整理しまとめる。
11	提携先での研修(1)：引率者等	シドニー大学、マッコーリー大学、バンクーバーアイランド大学、台北城市科技大学における研修の内容について理解を深める(1) 時間外学修 研修内容をまとめる。
12	提携先での研修(2)：引率者等	シドニー大学、マッコーリー大学、バンクーバーアイランド大学、台北城市科技大学における研修の内容について理解を深める(2) 時間外学修 研修内容をまとめる。
13	研修後のまとめ：引率者等	現地研修の内容や成果についてまとめ、発表用の資料を作成する。 時間外学修 現地研修のまとめをしておく。
14	研修のまとめの発表：引率者等	現地研修での内容や成果について発表する。 時間外学修 現地研修の発表の準備をしておく。
15	研修の成果と課題：引率者等	現地研修から学んだことや今後の課題について 時間外学修 研修のまとめを完成させておく。

《テキスト》

大野誠「敦照のこころ」現代書林、1995  
その他、必要な資料は授業で配布

《参考図書》

鷲見由理「ホームステイに役立つ英会話100」ナツメ社、2003

《授業時間外学習》

授業前にはテキストをよく読んでおくこと。  
授業後にはメモに基づきノートを作成すること。  
毎時間ごと、1時間程度の復習やまとめ、課題に取り組む。

《課題に対するフィードバック等》

「振り返りシート」やノート等の記録をその都度評価し、フィードバックしていく。

《教養科目》

科目名	埼玉学				
担当者氏名	武内 道郎				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

埼玉県の歴史や風土と、の中で育まれた人や食文化等に焦点を当て、郷土埼玉県を理解することで、本学で学ぶことの価値を共有し、保育者や食の専門職として地域で活躍することの意義を学ぶ。学生は専門職として地域社会に果たす役割を自覚し、保育者や食の専門職として活躍することの意義を理解するとともに、持続可能な社会（SDGs）に向けた埼玉県の未来を考える力を培う。

《授業の到達目標》

埼玉県の文化、自然等を学び、理解し、説明できる。  
 埼玉県が輩出した「人」に焦点を当て、地域社会づくりや男女共同参画社会実現での役割を説明できる。  
 埼玉の食文化・県内各地伝承の郷土料理を学び、その成り立ちや文化を理解し、説明することができる。  
 以上の学びを通し、埼玉県の未来について、SDGsの実現を踏まえ考え、実践する能力を培う。

《成績評価の方法》

授業中に課す小レポート60%、最終レポート40%で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考図書》

『埼玉のトリセツ』2020年7月、昭文社  
 県民学研究会(編)『思わず人に話したくなる埼玉学』2013年2月、洋泉社  
 渋沢栄一著・守屋淳訳『現代語訳論語と算盤』2010年2月、ちくま新書

《授業時間外学習》

授業前：次の授業回で扱うテーマについて、図書館の関連図書などで予習する。  
 授業後：授業で配布された資料等をよく読み込み理解を深め、小レポートを完成させる。  
 最終レポート：出身の市町村の歴史や特色、課題などを自己学習によって調査し資料を作成する。

《課題に対するフィードバック等》

レポートについては、内容を確認し、講評などでフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	県の基本情報	埼玉県の基本情報、県のシンボル、歴史、地形等について学ぶ。 [時間外学習]埼玉の自然、歴史、風土等について調べておくこと。
2	県のスポーツ、芸術文化	埼玉県の自然災害、スポーツ、文化、文学、芸術等について学ぶ。 [時間外学習]埼玉の自然、文化、芸術等について調べておくこと。
3	自分の地元を知ろう	出身市町村を学ぶことの意義を理解し、例として、加須市を取り上げる。 [時間外学習]自分の出身の市町村について、調べておくこと。
4	渋沢栄一の生涯	渋沢栄一の生涯、その功績と社会に与えた影響、彼を育んだ郷土埼玉県を考える。 [時間外学習]渋沢栄一の功績等について、調べておくこと。
5	荻野吟子や県の偉人たち	荻野吟子が果たした役割について考える。埼玉県のその他の偉人を紹介する。 [時間外学習]荻野吟子の功績等について、調べておくこと。
6	県の農産物、食文化	県内の農産物、伝統野菜とその歴史を学び、埼玉県の食文化を理解する。 [時間外学習]県内の有名な農産物等について、調べておくこと。
7	県の郷土料理、産業、鉄道	県内の郷土料理、産業、鉄道を学び、その成り立ちや文化を理解する。 [時間外学習]県内の郷土料理について、調べておくこと。
8	埼玉県の未来を考える	埼玉県の産業、観光、県民気質について学び、埼玉県の未来について、SDGsの実現を踏まえ考察する。最終レポートについて情報交換する[グループ協議]。
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/